

東京女子医科大学雑誌

JOURNAL OF TOKYO WOMEN'S MEDICAL COLLEGE

第57巻

昭和62年8月25日発行

第8号

目次

〔原 著〕

- Epidemiological survey of biliary diseases in Southern Taiwan
—An ultrasonic study of 3004 asymptomatic subjects
from a general population— …… Chung-Yin YUAN・Chung-Chou YUAN・
Tung-Kaung YUAN・Ta-Cheng WEI・
Hiroshi OBATA・Fujio HANYU・
Ken TAKASAKI・Seichiro KOBAYASHI… 807～ 812
- Midbrain asterixis …… 大澤美貴雄・小林 逸郎・
相川 隆司・村上 博彦・竹宮 敏子・丸山 勝一… 813～ 819
- 髄液のレオロジーと交通性水頭症 …… 吉田 滋… 820～ 825
- 血栓の画像診断用薬剤 (^{99m}Tc -Fibrinogen および ^{67}Ga -DFO-DAS-
Fibrinogen) の基礎的研究 …… 日下部きよ子・川崎 幸子・太田 淑子・
牧 正子・広江 道昭・重田 帝子… 826～ 836
- 僧帽弁狭窄症における肺血流分布の特徴
—デジタル肺血流像による評価— …… 田中 健… 837～ 843
- 脳動静脈奇形の循環動態
—Dynamic CT, 各種パラメーターによる循環動態の解析— …… 竹下 幹彦… 844～ 853
- 小児てんかん成因の特異性 …… 小国 弘量… 854～ 866
- 〔臨床報告〕
- 至誠会第二病院における糖尿病専門外来の治療状況に関する報告 …… 大河原久子・
宇治原典子・三神 美和・野村 淑子… 867～ 869
- 電子内視鏡による消化器疾患の診断と治療
第5報 ルーチン検査としての電子内視鏡の意義—1,000症例の検討— ……
……長谷川みち代・市岡 四象・増田美知子・亀井 文恵・
片山 修・関 やよい・森 治樹・芳賀 駿介・勝部 隆男・
稲葉 俊三・成高 義彦・中田 一也・梶原 哲郎・数間 雅子… 870～ 874
- 尿蛋白, 高血圧を伴わない糖尿病患者における微量アルブミン尿
—2年間の経過— …… 小田桐玲子・川越 倫・
平田 幸正・野村 武則・明石 弘子… 875～ 880

〔学 会〕

東京女子医科大学学会 第270回例会 …… 881～ 882

〔学術情報〕

…… 883～ 888

〔雑 報〕

…… 889

〔付 録〕

学位論文内容の要旨および審査の結果の要旨 第26集 (昭和62年5月) …… 891～1029

本誌略名
東女医大誌
J Tokyo Wom
Med Coll

東京女子医科大学学会

SOCIETY OF TOKYO WOMEN'S MEDICAL COLLEGE

東京都新宿区河田町8番1号 東京女子医科大学図書館内

JOURNAL OF TOKYO WOMEN'S MEDICAL COLLEGE
(TOKYO JOSHI IKADAIGAKU ZASSHI)

Vol. 57

August, 1987

No. 8

CONTENTS

Originals

- Epidemiological survey of biliary diseases in Southern Taiwan (An ultrasonic study of 3004 asymptomatic subjects from a general population) Chung-Yin YUAN, Chung-Chou YUAN, Tung-Kaung YUAN, Ta-Cheng WEI, Hiroshi OBATA, Fujio HANYU, Ken TAKASAKI, Seiichiro KOBAYASHI . . . 807~ 812
- Midbrain asterixis Mikio OSAWA, Itsuro KOBAYASHI, Takashi AIKAWA, Hirohiko MURAKAMI, Toshiko TAKEMIYA, Shoichi MARUYAMA . . . 813~ 819
- Cerebrospinal fluid rheology and communicating hydrocephalus . . . Shigeshi YOSHIDA . . . 820~ 825
- Fundamental studies of thrombus imaging agents; ^{99m}Tc-fibrinogen and ⁶⁷Ga-deferoxamine (DFO)-dialdehyde starch (DAS)-fibrinogen Kiyoko KUSAKABE, Yukiko KAWASAKI, Yoshiko OHTA, Masako MAKI, Michiaki HIROE, Teiko SHIGETA . . . 826~ 836
- Characteristics of distribution of pulmonary perfusion in patients with mitral stenosis — Estimation with digital perfusion images (DPI)— Takeshi TANAKA . . . 837~ 843
- Hemodynamic study of arteriovenous malformations — Analysis of hemodynamics by dynamic CT— Mikihiko TAKESHITA . . . 844~ 853
- Pathogenesis of epilepsy in childhood Hirokazu OGUNI . . . 854~ 866

Case Reports

- Report on current aspects of diabetic treatment at the Diabetic Clinic Shiseikai Hospital Hisako OHGAWARA, Noriko UZIHARA, Miwa MIKAMI, Yoshiko NOMURA . . . 867~ 869
- Diagnosis and treatment of the gastrointestinal tract by electronic endoscopy: Meaning of electronic endoscopy for routine examination — Study of 1,000 cases— Michiyo HASEGAWA, Shisho ICHIOKA, Michiko MASUDA, Fumie KAMEI, Osamu KATAYAMA, Yayoi SEKI, Haruki MORI, Shunsuke HAGA, Takao KATSUBE, Shunzo INABA, Yoshihiko NARITA, Kazuya NAKADA, Tetsuro KAJIWARA, Masako KAZUMA . . . 870~ 874
- Microalbuminuria in diabetics without proteinuria and hypertension — Two years follow up study— Reiko ODAGIRI, Michi KAWAGOE, Yukimasa HIRATA, Takenori NOMURA, Hiroko AKASHI . . . 875~ 880

Proceedings

- The 270th Meeting of the Society of Tokyo Women's Medical College 881~ 882

Appendix

- Résumés of disertation Vol. 26 (1987) 891~1029

雑 報

編 集 後 記

○編集幹事会

日 時 昭和62年6月1日（月）午後4時より
場 所 学会室
議 題 東京女子医科大学雑誌57巻8号
査読結果審議
その他

○集会幹事会

日 時 昭和62年5月9日（火）午後4時より
場 所 学会室
議 題 271回例会について
評議員会について
総会について その他

従来投稿論文の査読から雑誌発行までの期間がかなり短い為、査読者によって指摘された点を著者が充分吟味し適切な変更をする時間的余裕が少なかった。この点を改善するために、各号の原稿締切日を1カ月早め(たとえば9号は6月20日を5月20日にした)、査読が終わった後著者によって原稿を直す期間を長くとするように変更したので投稿者は御注意いただきたい。投稿論文のうち日本文の表題と英文表題の意味がかなり異なるものがあったが、できるだけ一致させようとするのが編集会議の方針であった。又、一般に本文に比べ図表の説明に注意が行き届かない傾向があることが編集会議で指摘された。図には通し番号をつけ、図の説明は別紙にまとめて日本語でお書きいただきたいのである。

本号には1,000例あるいはそれ以上の症例を集めた臨床研究の労作が2編も発表された。これだけ多数の症例を集められるのは本学ならでのことで大変喜ばしい。しかし我々基礎教室の立場からすると、実験動物を用いた薬理学或は生化学的研究の投稿が少ないのは残念である。この方面の研究も本誌に投稿下さるよう諸先生方をお願いする次第である。

(1987年6月5日 村木 篁)

学位論文

内容の要旨

および

審査の結果の要旨

第 26 集

(昭和62年 5 月)

東京女子医科大学

東京女子医科大学雑誌 第57巻 第8号 (昭和62年 8 月) 付録

はしがき

本集は、学位規則（昭和28年4月1日文科省令第9号，昭和49年6月改正）第8条による公表を目的として，昭和61年4月より同62年3月までの間に本学で学位授与した者の論文内容の要旨を収録したものである。

目 次

医 学 博 士

掲載順位	学位授与番号	氏 名	論 文 題 名	頁
(1)	甲第159号	高 梨 美乃子	急性骨髄性白血病における芽球コロニー形成 に対する各種遺伝子組み換え型インター フェロンの影響……………	896
(2)	甲第160号	鎌 形 有 祐	インターロイキン-1に対するマウス胸腺細 胞の反応性にみられる系統間の差異の解析…	898
(3)	甲第161号	金 子 篤 子	症候性および無症候性原発性胆汁性肝硬変症 の比較検討……………	900
(4)	甲第162号	中 島 由美子	陣痛の二次元画像による子宮収縮パターン分 析の試み……………	902
(5)	甲第163号	東 田 俊 彦	Langendorff 型ラット灌流心における心房性 ナトリウム利尿因子 (atrial natriuretic factor) の分泌調節機序について —冠血行動態および心拍動の影響—……………	904
(6)	甲第164号	関 由紀夫	進行性低酸素状態の蘇生における補助心マッ サージの効果について……………	906
(7)	乙第759号	関 口 建 次	扁平上皮癌の頸部リンパ節転移に対する放射 線治療効果の臨床的評価 —腫瘍縮小曲線における体積半減時間の分 析を中心に—……………	908
(8)	乙第760号	森 一 博	心エコー図法の心奇形非侵襲的診断と手術へ の応用……………	910
(9)	乙第761号	大 橋 泰 彦	サーモグラフィによる乳癌の診断に関する研 究……………	912
(10)	乙第762号	石 原 和 明	完全大血管転位症における Jatene 手術の位 置づけに関する臨床的検討……………	914

(11)	乙第763号	横山修子	正常心ならびに虚血心に及ぼす Nitroglycerin, Verapamil, Acebutolol の影響 ……	916
(12)	乙第764号	東館雅文	上室性不整脈に対する右心房局所冷却治療法の実験的研究……………	918
(13)	乙第765号	戸塚陽子	無脳児における胸腺の解剖学的研究……………	920
(14)	乙第766号	小坂博美	高カロリー輸液における CDP-choline の脂肪変性抑制効果……………	922
(15)	乙第767号	江本直也	Nb2細胞を用いたヒト成長ホルモンの生物活性に関する研究……………	924
(16)	乙第768号	藤岡達雄	若年性大動脈瘤の病因……………	926
(17)	乙第769号	野尻知里	新たに開発した TM3コーティング一時的シャントチューブ 実験的検討……………	928
(18)	乙第770号	沢田陽子	小児期における完全右脚ブロックに関する研究……………	930
(19)	乙第771号	相馬芳明	伝導失語と短期記憶……………	932
(20)	乙第772号	薬師寺公一	Auto-MLR (Autologous Mixed Lymphocyte Reaction) よりみた胃癌所属リンパ節の免疫動態に関する研究……………	934
(21)	乙第773号	石川雅健	新しい皮膚二重縫合法による縫合糸痕の改善に関する研究……………	936
(22)	乙第774号	栗屋豊	初回特発性痙攣重積症の長期予後とくにてんかん発症との関連を中心に……………	938
(23)	乙第775号	弓削一郎	術中の心内短絡定量法に関する研究……………	940
(24)	乙第776号	李志成	十二指腸潰瘍穿孔の臨床病理学的検討……………	942
(25)	乙第777号	椋棒由紀子	低体温麻酔下の微小循環動態の基礎的研究……………	944
(26)	乙第778号	津田信幸	CO ₂ レーザーメスのハンドピースの工夫—高温ガス噴射式ハンドピースの開発及び接触性赤外線コアグレーターの併用による家兎肝切除の実験的研究—……………	946
(27)	乙第779号	中島清隆	食道離断術後の食道静脈瘤に対するプロプラノロールの効果……………	948
(28)	乙第780号	五十嵐達紀	直腸癌局所再発(骨盤腔内再発および会陰部再発)の成立機序に関する臨床病理学的研究……………	950
(29)	乙第781号	原仁	てんかんおよび熱性けいれん児の注意持続力とそれに及ぼす抗けいれん剤の影響……………	952
(30)	乙第782号	野口友義	直腸癌の術前照射効果に関する臨床病理学的研究……………	954
(31)	乙第783号	大谷敏嘉	25歳未満発症糖尿病患者における網膜症の進展と HbA _{1c} との関係 ……	956

- (32) 乙第784号 西山 祥行 補填材料としての Glutaraldehyde 処理豚心膜についての基礎的、臨床的研究…………… 958
- (33) 乙第785号 斉藤 道顕 止血を目的として考案した血管内カテーテルの効果と安全性に関する実験的研究…………… 960
- (34) 乙第786号 清水 忠夫 乳癌における CEA 測定の臨床病理学的意義—組織 CEA 量を中心として—…………… 962
- (35) 乙第787号 小豆畑 博 食道静脈瘤に対する内視鏡的硬化療法の臨床的研究…………… 964
- (36) 乙第788号 康 錫柱 低出力炭酸ガス・レーザーによる家兎胆管切開創修復に関する実験的研究…………… 966
- (37) 乙第789号 井原 寛 脳虚血犬に対する頭部表面冷却効果…………… 968
- (38) 乙第790号 中村 茂基 Genetic polymorphism of human factor I (C3b inactivator) (ヒト factor I (C3b inactivator) の遺伝的多型) …………… 970
- (39) 乙第791号 関口 紀子 子宮頸部Ⅲ期扁平上皮癌放射線治療例の予後因子の検討—多変量解析を応用して—…………… 972
- (40) 乙第792号 須田 昭夫 A histochemical localization of acetylcholinesterase and cholinesterase activities in mammalian kidneys (哺乳動物の腎臓におけるアセチルコリンエステラーゼおよびコリンエステラーゼ活性の組織化学的局在の証明) …………… 974
- (41) 乙第793号 平泉 泰自 胃全摘再建術式の比較検討
第1編 糖負荷後の消化管ホルモン動態よりみた解析
第2編 術後栄養状態よりみた解析…………… 976
- (42) 乙第794号 古守 知典 糖尿病における代謝性アシドーシスと赤血球酸素解離能に関する研究…………… 978
- (43) 乙第795号 加藤 信世 Subacute inhalation experiment for methyl bromide in rats (ラットにおけるメチルブロマイド亜急性吸入実験) …………… 980
- (44) 乙第796号 多田 羅勝義 川崎病の長期予後
第1編 当科における17年間の経過観察の状況
第2編 冠動脈後遺症、左心室壁運動異常を残した症例について…………… 982
- (45) 乙第797号 王 本 榮 てんかん治療におけるフェニトインとバルプロ酸併用時の遊離型フェニトイン濃度測定の意義…………… 984

- (46) 乙第798号 戸田 央 腹腔内大量出血時, 胸部下行大動脈の間欠的遮断効果に関する実験的研究…………… 986
- (47) 乙第799号 林 しおり MRI/l マウスにおける冠動脈炎および心筋障害
—その経時的, 病理組織学的解析…………… 988
- (48) 乙第800号 橋本 節子 空中真菌相について
—気管支喘息児の家庭内真菌分布に関する検討—…………… 990
- (49) 乙第801号 高橋 敏 右肺全摘後および右主気管支遮断後の循環動態に関する実験的研究…………… 992
- (50) 乙第802号 小山 雄次 体外循環中に送血部動脈壁が受けるせん断応力の研究
—逆行性大動脈解離の成因に関する検討—… 994
- (51) 乙第803号 熊沢 健一 肝外性閉塞性黄疸時の循環動態に関する実験的研究…………… 996
- (52) 乙第804号 高山 澄子 Phorbol esters modulate insulin receptor phosphorylation and insulin action in cultured hepatoma cells (ラット肝癌細胞におけるインスリン受容体の燐酸化, 及びインスリン作用に対するフォルボルエステルの影響について) …………… 998
- (53) 乙第805号 春木 宥子 ヘパリンの鶏胚大腿骨の骨代謝に対する影響…1000
- (54) 乙第806号 毛井 純一 抗血栓ポリマー (HEMA-St block copolymer) を用いた冠動脈用小口径人工血管の研究
第1報 抗血栓性の検討……………1002
- (55) 乙第807号 北野 慎一郎 内在性バースト細胞による呼吸リズム形成の可能性
—呼吸中枢の位相応答曲線による分析—…………1004
- (56) 乙第808号 若井 加恵 培養ラット肝細胞におけるヒト成長ホルモン分解機構……………1006
- (57) 乙第809号 加藤 孝男 乳癌の予後因子に関する臨床病理学的検討
—特に脈管内侵入所見と細胞異型性との関連について—……………1008
- (58) 乙第810号 水内 整 栄養学的パラメータを用いた重回帰式による術後早期の必要投与熱量および窒素量の推定……………1010
- (59) 乙第811号 中迫 利明 腭頭部癌の切除範囲に関する病理組織学的研究
—特に腭全摘術の適応について—……………1012
- (60) 乙第812号 山田 則道 気腹時の循環動態に関する実験的研究……………1014

- (61) 乙第813号 瀬下明良 早期離床と術後肺機能の関連についての臨床的検討……………1016
- (62) 乙第814号 田原士朗 漏斗胸の血行動態および心血管造影に関する研究……………1018
- (63) 乙第815号 山田恵子 甲状腺腫瘍の超音波診断
—特に乳頭癌と濾胞癌の超音波所見について—……………1020
- (64) 乙第816号 酒井吉郎 右心系容量負荷疾患における肝静脈血流測定
の意義……………1022
- (65) 乙第817号 斎藤十九子 2'5'-oligoadenylate synthetase activity in
serum of healthy subjects and homosexual
men infected with human immunodeficiency
virus (健康人と AIDS ウイルスに感染した同性愛男子の血清中
2'5'オリゴアデニレート合成酵素活性に関する研究) ……1024
- (66) 乙第818号 山本和子 悪性腫瘍肝転移における血清5'-Nucleotide
phosphodiesterase isoenzyme-V の腫瘍
マーカーとしての意義……………1026
- (67) 乙第819号 西山隆明 脳虚血による中枢神経障害に対する頭部表面
冷却の効果について
—急性心停止犬を用いた研究—……………1028

東京女子医科大学学会則

(雑誌の発行・編集に関する条項抜萃)

第3条 本会の目的を達するため次の条項を行なう。

1. 集会 2. 雑誌発行

第10条 幹事は会長が指名し、会計、集会、編集、その他の事務を分掌する。

第13条 本会の雑誌を「東京女子医科大学雑誌」と称し、年12回もしくは11回発行し、本会会員に配布する。

東京女子医科大学雑誌投稿規定

(昭和62年4月1日改訂)

1. 投稿の資格 投稿者は共同執筆者を含め本会会員に限る。

2. 投稿内容 本誌は原著(和文、または英文)、総説、臨床報告、調査報告、集会記録・報告などを掲載する。いずれも未発表のものに限る。

3. 経費

論文の種類	無料分	有料分	別刷代
原著論文	刷り上がり4頁 (400字×16) 24,000円分	超過頁× 6,000円	50部単位 で有料
臨床報告	刷り上がり2頁 (400字×8) 12,000円分	超過頁× 6,000円	〃
英文論文	刷り上り2頁 (タイプ用紙4枚) 16,000円分	超過頁× 8,000円	〃
依頼原稿	全頁無料		50部まで 無料

4. 寄稿細則

1) 寄稿カード 本学会所定の寄稿カードに必要事項を記入して添付する。

2) 原稿はコピーを一部添えて提出する。
図表は鮮明なものに限る。

3) 表紙 原稿には表紙をつけ、次の項目を記入する。

表題・著者の所属・主任あるいは指導者名(所属が2カ所ある場合は列記、あるいは一方を脚注とする)・著者の姓名(上つきでフリガナ)・別刷(著者実費)請求部数(単位50部、左余白に朱書)。

4) 抄録 原著および総説の原稿には英文抄録

(約200語をダブル・スペースでタイプする)とその和訳をつける。英文・和文の内容は一致させる。英文抄録の冒頭には表題・著者名(姓は大文字)、所属(主任あるいは指導者名)を記載する。

臨床報告、調査報告などは英文抄録不要、但し、脚注とするため、著者名(姓は大文字)・所属・表題の順に英訳を別紙に記載して、添付する。

5) 本文

(1) 和文 文中の欧文はタイプ、または活字体とする。原稿はA4版もしくはB5版の横書き400字詰原稿用紙にペンまたはボールペンで書く。

ワープロ原稿はA4版もしくはB5版用紙を用い上下左右に十分な余白を取り、字間・行間をあけて20字(40バイト)×20行とする。

(2) 英文 簡明に表現する。論文の構成、その他寄稿細則は和文に準ずる。A4版タイプ用紙にダブル・スペースでタイプする。英文論文には必ず和文抄録(冒頭に表題、著者名、所属をつける)を添付する。

6) 論文の構成 論文は原則として要約、緒言、方法および対象、結果、考察、結論および文献とする。

7) 数字 文中の数字はアラビア数字を用い、単位は原則としてCGS単位を用いる。(dl, ml, μ l, min, h, μ g, kg, 等)。

8) 用語 専門用語は学会で統一されている用語を用いる。略語を用いる場合は、初出の際には省略しない。

9) 図、表 図表は本文とは別紙とする。図は図1、図2…表は表1、表2…のように番号をつける。図表の表題は、別紙にまとめて記入する。

10) 写真 写真は手札版が望ましく白黒明瞭なものに限る。アート紙の場合は刷上り実寸大のもの、電顕写真にはバーを入れる。

原色版(カラーアート紙)の実費は著者負担とする。

原図および表の大きさはA 4版以内とし、白紙あるいは青色方眼紙に黒色で明瞭に書く。

提出された図、表が印刷に耐えない場合は、改めて図、表を作製し直すことがある。その実費は著者負担とする。図、表および写真の挿入箇所は、本文原稿右側欄外に、図、表、写真の番号を明記して示す。

11) 文献

(1) 引用文献

論文に直接関連する文献に限り、引用順に一連番号をつけて、論文末尾に記載し、本文中の引用箇所には、右上肩に片カッコを付した番号で示す。

(2) 雑誌名

文献に引用する雑誌名の略名は、外国誌については、Index Medicusにより、和雑誌は、各誌の表紙に表記の略名による。

(3) 文献引用例

a. 雑誌論文の引用

著者名：表題、雑誌名 巻：開始頁—最終頁、発行年の順序とする。著者名は3名まで記載し、4名以上の場合には筆頭著者を含めて3名のみ記載し他は「ほか」、あるいは、「et al.」と省略する。外国雑誌論文の著者名はfamily name, first name, middle nameの順序で記載し、family name以外はinitialのみとする。和雑誌の日本人名は姓、名前の順に記載する。

例1. 山根清美, 竹内 恵, 北村英子ほか：
末梢神経組織内に肉芽腫の認められた
sarcoid neuropathyの1例。日内会誌
75：522-527, 1986

例2. **Gorden T, Castell WP**： High density as a protective factor against coronary heart disease. The Framingham Study. *Am J Med* 62：607-714, 1977

b. 単行本の引用

著書引用の場合は著者名あるいは編者名：書名、引用頁 [pp 82-98の如く記載]、発行書店名、発行地、(発行年)の順に記載する。編者のある単

行本の一部を引用する場合には著者名：表題、「書名」(編者名)、引用頁、発行書店、発行地、(発行年)の順序とする。翻訳書の場合には書名のあとに監訳者名をいれる。単行本の全部を引用する場合は引用頁を記載する必要はない。

例3. 齋藤慎太郎：甲状腺疾患。pp 1-16,
永井書店、大阪(1985)

例4. 五島雄一郎, 後藤由夫編：動脈硬化症の新しい診断と治療。医薬ジャーナル社、大阪(1985)

例5. 城所良明：神経筋接合の形成。「筋発生の細胞生物学」(小沢英二郎, 嶋田 裕, 真崎知生編), pp 259-282, 学会出版センター, 東京(1983)

例6. **Swaiman KF, Ashwal S**： MEP小児神経病ケーススタディ。46例の研修(福山幸夫監訳), 医学書院, 東京(1980)

例7. **Kahn CR, Roth J**： Insulin receptors in disease states. *In* Hormone-receptor Interaction (Levy GS ed.) pp 1-29, Marcel Dekker, New York (1981)

5. 雑誌の編集・発行 編集委員会は編集幹事によって構成され、本誌の編集・発行に関する責任と権限をもつ。

編集委員会は投稿原稿を査読し、採否を決定する。編集委員会は原則として毎月1回開催する。論文の掲載は受付順を原則とする。

本誌の発行は年12回、もしくは11回とする。臨時増刊は年1回を原則とする。

6. 校正 初校・再校は著者校正を原則とする。大幅な改変や訂正は許されない。

7. 別刷 別刷は著者実費、50部単位で申込みを受ける。発行後の追加は認められない。

8. 寄稿の宛名

〒162 東京都新宿区河田町8-1

東京女子医科大学学会編集幹事宛

Tel. 03(353)8111 内線2233

編 集 委 員

井 笠 小 小 神 日 三 村 中	口 島 林 暮 津 下 部 原 木 沢	登 美 子 武 郎 子 彦 子 彦 子 彦 篁 誠	押 鈴 竹 田 東 對 横 横	味 木 宮 村 間 馬 田 山	和 敏 敦 敏 和 正	夫 茂 子 子 紘 夫 子 義
-------------------	---------------------	---------------------------	-----------------	-----------------	-------------	-----------------

ABC順

昭和62年8月20日 印刷
昭和62年8月25日 発行

東京都新宿区河田町8番1号
東京女子医科大学図書館内

発行所 東京女子医科大学学会

電話 03 (353) 8 1 1 1 番 (代表)
内線 2233 番

〒162 東京都新宿区河田町8番1号
東京女子医科大学図書館内

編集兼 吉 岡 守 正
発行者

電話 03 (353) 8 1 1 1 番 (代表)
内線 2233 番

〒114 東京都北区西ヶ原3丁目46番10号

印刷者 向 喜 代 次

印刷所 株式会社 杏 林 舎

電話 03 (910) 4311 (代表)

東京女子医科大学雑誌規定

○会費払込は振替口座「東京5-4342」東京女子医科大学学会宛のこと

○会費は毎年1月中に払込まれること

会 費 (購読料)	売 価
1カ年 金 6,000円	1部 金 1,000円

〒113 東京都文京区本郷3丁目35番6号大石グリーンビル3階

広 告 株式会社 大 矢 商 会
取 扱 者 電話 03 (813) 7031~4 番